

くまはる

多職種協学

認知症予防 地域の連携がカギ

グループワークで意見を出し合う

7

2025

NEWS

FINANCIAL REPORT

3,456

2,589

1,258

4,896



6.58 12.3

認知症予防 地域の連帯が鍵

課題解決へ グループワークで意見を出し合う



群馬医療福祉大学
リハビリテーション学部教授
作業療法士 山口智晴 先生

6月13日、前橋市地域包括支援センター西部主催による「令和7年度第1回多職種協学事例検討会」が開催された。「認知症の理解を深め誰もが安心して暮らせる地域」をテーマに掲げ、医療・介護の専門職約60名が集い、認知症について学び解決策を提案しあった。前橋市柔道整復師会からは、齋藤泰光会員(筆者)が参加した。

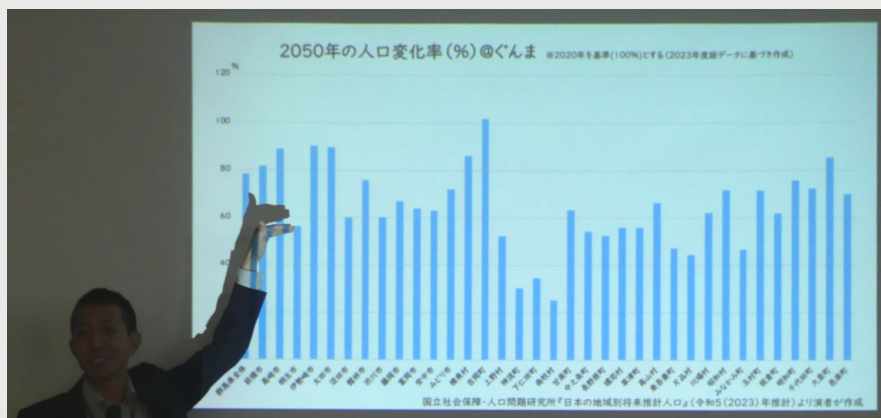
講義に先立ち、地域包括支援センター西部・竹内勇治副センター長は「認知症を含めて高齢者を取り巻く環境は様々です。講習会を通して改め

て認知症について学び直し、様々な問題を解決できるように職種を超えてお互い協力し合えればと思います」と開催の意義を語った。

生活障害でもある認知症

多職種協学事例検討会の年間テーマは「認知症の理解を深め、だれでもがあんしんし

て暮らせる地域づくり」。今回、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部教授・山口智晴先生を講師に迎え、「知っているようで知らないことばかり～認知症でなんだんべ～」と題して講義がおこな





われた。

認知症とは認知機能の低下では無く、認知機能低下による生活障害であり、MCI(軽度認知症)を含めるとその数は国内に1,036万人に及ぶという。義務教育の児童生徒数は908万人であるから、驚きの数字だ。

発症は、ある日突然ではなく、徐々に苦手な行為が増え日常生活に支障をきたしていく。そのため、精神的にも不安や混乱が増大していくのが特徴となる。つまり、とても身近でだれでも成り得る病気であるというのだ。

少子高齢社会が進む現代では独居老人になり、認知症の

リスクも高まっている。山口先生は「この大きな地域の課題を乗り越えるためにはどうしたら良いでしょうか？」と問いかける。

地域社会の課題 解決への糸口を探る

そこで講義終了後に、この問題を解決に導くためのグループワークに移行。グループ内では「認知機能が低下しても生活しやすい地域とはどのようなものだろうか」、「認知症があっても社会の一員として参加出来る地域にするにはどうしたらよいだろうか」といった問いに沿って意見を出し合った。

グループによる発表では、人が集まりコミュニケーションが取れる場所づくり、買い物やお出掛けをサポートする環境を整備、認知症でも可能な仕事や趣味などのやり甲斐づくりをサポート、などが挙げられた。

現在、前橋市柔道整復師会では、「からだ軽やか健康教室・出前講座」などを開催し地域社会の健康維持促進の一端を担っている。今回の検討会は、こうした地域包括支援を実施する柔道整復師として、超高齢化社会において、どの様に貢献していけるかを改めて考える機会となった。

(報告 齋藤泰光)



日整全国少年柔道大会
日整全国少年柔道形競技会

選手選考会



練習の成果を発揮し いざ全国へ

公益社団法人群馬県柔道整復師会は6月、「文部科学大臣杯争奪・公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)全国少年柔道大会」並びに「日整全国少年柔道形競技会」に出場する県選手選考会をヤマト市民体育館前橋柔道場で開催した。

少年柔道大会には県内の小学4年生から6年生までの56名、形競技会に6組が参加し全国大会への出場を目指して試合に臨んだ。この2つの大会は学年別の体重無差別、男女混合で試合を行う。

原澤研祐会長は開会挨拶の中で、大会開催に協力いただいた指導者並びに選手の家族に感謝の意を表し「全国大会

という大舞台を目指し、地道に練習を続けてきた成果を存分に発揮して試合に挑んでください」とエールを送った。

選考会におけるすべての試合終了後に、試合結果を基に各学年の上位に入った選手の中から全国大会の出場者を選考。4年生は岡慎之介(田島隆行会員)、5年生は戸塚思成(高木啓光会員)・小菅蒼空(茂木位会員)両選手、6年生関口悠(高木啓光会員)・齋藤歩紀楓(高木啓光会員)両選手を各学年の群馬県代表に決定した。

形競技会は村上義道・桑原征ノ介(櫻井太郎会員)ペアが本県代表となった。

() 内は柔道場指導者



接骨師赤十字奉仕団委員会 協力体制を築き 災害へ対応

5月、県柔道整復師会多目的ホールで接骨師赤十字奉仕団委員会を開催した。

田島隆行委員長は挨拶の中で、海外でも災害が頻発していることをあげ、「日本列島もいつどこで大地震が起きても不思議ではない。フェイクニュースに騙されることなく、災害発生の際には日本赤十字社の皆様と力を合わせていきたい」と協力を誓った。

日整の災害担当でもある原澤研祐会長は、過去にも新潟中越沖地震・東日本大震災時に日赤救護班の一員として現地に赴い

た経験がある。その時の思いを語り、接骨師奉仕団として日本赤十字社への感謝の言葉を述べた。

日本赤十字社の江原氏は、「発災時には救護班に帯同、また平時は災害救護訓練への参加など、接骨師赤十字奉仕団とは協力体制を築いています。今後も柔道整復師会とともに歩んでいきたい」と災害への対応に期待を寄せた

田島委員長を議長として議題へと移行。昨年1年間の事業報告・今後の予定を協議した。



7月の当番施術所

前橋	伊勢崎佐波	桐生みどり	太田	高崎	富岡甘楽
6日(日) 岩田接骨院 027-237-5158	森接骨院 0270-32-0115	新井接骨院 0277-44-7577 佐藤接骨院 0277-51-5858	よしだ接骨院 0276-55-6899	桜井接骨院 027-344-1500 プロケア整骨院 027-395-5050	萩原接骨院 027-352-4178 佐俣接骨院 0274-82-5252
13日(日) 下沖町つばさ接骨院 027-233-1925	せき接骨院 0270-61-8711	くぼづか接骨院 0277-77-2112 福岡接骨院 0277-44-5100	いしはら接骨院 0276-25-1984	大谷接骨院 027-343-7701 高橋接骨院 027-363-1172	たかばやし接骨院 080-2457-3167
20日(日) いのうえ接骨院 027-261-2855	森接骨院 0270-25-1122	大川接骨院 0277-44-1151 馬場接骨院 0277-73-7455	市川接骨院 0276-49-3421	石井接骨院 027-374-0586 中村接骨院 027-344-1877	勝田接骨院 027-360-5830 田村接骨院 0274-63-1811
21日(月) 広瀬接骨院 027-263-8881	伊勢崎みさと鍼灸整骨院 0270-27-5338	奥澤接骨院 0277-76-2036 中島鍼灸接骨院仲町 0277-43-4117	桑原接骨院 0277-78-6763	たかぎ接骨院 027-371-8066 飯島接骨院 0274-42-6308	渡辺接骨院 027-346-8688 鶴田接骨院 0274-64-3301
27日(日) 育英メディカル附 属イクメ接骨院 027-253-5341	さかい整骨院 0270-76-4690	周藤接骨院 0277-44-5827 高柳接骨院 0277-72-2082	須永接骨院 0276-48-8008	さまた接骨院 027-372-2178 あおば整骨院 027-364-5916	接骨院・いっ歩 027-386-2235 中村接骨院 0274-74-6200



左の2次元コードからも
アクセスできます。

休日当番は変更となる場合があります。
詳しくは当会ウェブサイトにて、ご確認をお願い致します。



<http://www.sekkotuin.or.jp/kyujitu/index.html>

